

## 2.6 調査結果

### 2.6.1 サンゴ類被度

目視によるサンゴ類被度の調査結果を表 2.5.1 に示した。

表 2.6.1 調査地点における被度調査結果

海区	調査地点	水深(m)	被度(%)	
			2004 (平成16年)	2005 (平成17年)
真栄田	長浜	10	2.4	2.0
		2	81.0	80.0
	真栄田塩屋	10	2.0	2.0
		2	53.4	50.0
前兼久	ムーンビーチ	10	2.4	2.0
		2	39.0	40.0
	サンマリーナ	10	5.7	6.0
		2	0.1	0.1
南恩納	宜志富	10	2.0	2.0
		2	0.1	0.1
	ホーシュー	10	2.0	5.0
		2	0.1	0.1
瀬良垣	万座ビーチ	10	2.0	2.0
		2	11.0	11.0
	瀬良垣ビーチ	10	0.6	0.5
		2	11.0	2.0
安富祖	みゆきビーチ	10	6.0	6.0
		2	0.1	0.1
	ミッションビーチ	10	2.0	2.0
		2	36.0	35.0

今回の調査結果からは、瀬良垣の水深 2m 地点以外では、目立った被度の変化は見られなかった。瀬良垣調査海域付近では 3 月末から 4 月にかけて個体 740 個体が駆除されており、被度の低下（11%→2%）はオニヒトデ 740 個体の食害によるものと考えられる。近年では駆除は 2 月に実施されていることから、今年度の駆除時期が遅れことが被害の原因と考えられる。

その他の海域についても、幼群体の加入が見られるにもかかわらず被度の上昇が見られていない場所が多い。これは加入した群体がオニヒトデによる捕食を受けていることを示唆している。幼群体が散在している場合、オニヒトデ 1 個体の捕食行動によって短期間に複数の個体が連続的に被害を受ける。したがって、オニヒトデの個体数低下が直ちにサンゴ類の被度上昇につながらない可能性があり、多くの海域で継続した駆除活動が重要と考えられる。

調査によって確認された特にサンゴ類の被度が高い場所については、サンゴ類保全のための重要監視区域として注視する必要がある。

また、礁斜面（特に北部海域）でサンゴ類の幼群体が多く見られる場所（ホーシューやミッションビーチ前など）では、これらの幼サンゴ群体が順調に成育できるよう、注視する必要がある

恩納村沿岸のサンゴ礁生態系保全の観点から、これらの重要監視区域候補地のうち、礁池（イノー）では漁業者を中心とした、礁斜面ではダイビング関係者を中心とした監視体制を整備することが重要と考えられる。



写真 2.6-1 真栄田海区の礁池（イノー）のコモンサンゴ群集。優占種はエダコモンサンゴとチヂミウスコモンサンゴ(平成 17 年 4 月 18 日)



写真 2.6-2 真栄田海区の礁池（イノー）のコモンサンゴ群集。駆除によりオニヒトデの被害は見られない。(平成 17 年 4 月 18 日)



写真 2.6-3 前兼久海区の礁池（イノー）のユビエダハマサンゴ群落。スズメダイ類が多く見られる。(平成 17 年 4 月 19 日)



写真 2.6-4 前兼久海区の礁池（イノー）のチヂミウスコモンサンゴ群落。スズメダイ類が多く見られる。(平成 17 年 4 月 19 日)



写真 2.6-5 南恩納海区の礁池（イノー）のコエダミドリイシ幼群体。着底後約3年が経過していると考えられる。（平成17年4月20日）



写真 2.6-6 南恩納海区の礁池（イノー）のヒメマツミドリイシ幼群体。この10年で最も減少した種である。（平成17年4月20日）



写真 2.6-7 瀬良垣海区の礁池（イノー）のヤッコミドリイシ。産卵可能な群体は大変貴重な存在となっている。（平成17年5月17日）



写真 2.6-8 瀬良垣海区の礁池（イノー）のウスエダミドリイシ。5月23日には産卵が確認された（平成17年5月17日）



写真 2.6-9 安富祖海区の礁斜面のオニヒトデが食べないダイオウサンゴ斃死部分で見られるミドリイシ幼群体。（平成17年5月20日）



写真 2.6-10 安富祖海区の礁池（イノー）のコブハマサンゴ。大型群体が多く見られる。（平成17年5月20日）

## 2.6.2 オニヒトデ個体数食痕数

調査対象範囲に出現したオニヒトデ食痕数を表 2.5.3 に示した。また、今回の調査では調査対象範囲からオニヒトデ個体は確認されなかった。

食痕が比較的多く確認された調査地点は、長浜の水深 10m、真栄田塩屋の水深 10m、ミッションビーチの水深 10m であった。食痕が見られたのはほとんどがサンゴモ類と加入後 3 年未満の若い群体（特にミドリイシ属）であった。また、調査測線周辺での特記事項として、真栄田海区、万座ビーチ前の礁池内（イノー）では、サンゴモ表面に稚ヒトデのものと考えられる食痕が多く見られた。

表 2.6-2 調査対象範囲で確認されたオニヒトデ食痕数

調査地点	水深(m)	食痕数	
		2004 (平成16年)	2005 (平成17年)
長浜	10	24	18
	2	9	4
真栄田塩屋	10	21	14
	2	5	3
ムーンビーチ	10	8	4
	2	4	2
サンマリーナ	10	15	4
	2	2	0
宜志富	10	47	
	2	3	0
ホーシュー	10	11	1
	2	7	3
万座ビーチ	10	36	1
	2	23	4
瀬良垣ビーチ	10	10	2
	2	34	3
みゆきビーチ	10	17	9
	2	44	6
ミッションビーチ	10	4	17
	2	9	0

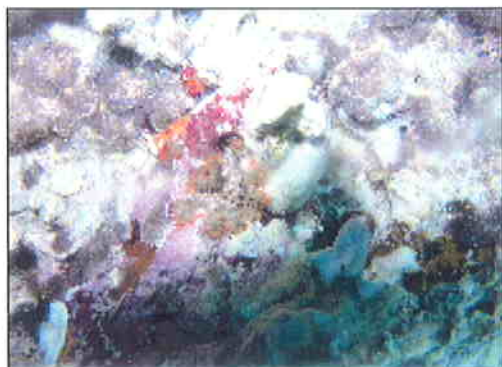


写真 2.6-11 前兼久海区の礁池（イノー）でサンゴモの付着した基盤を崩すと稚ヒトデが見られる

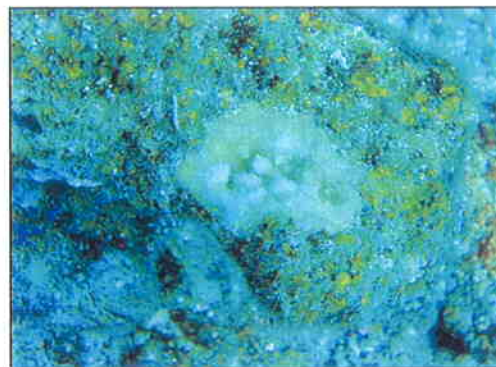


写真 2.6-12 安富祖海区の礁斜面（水深 10m）ではミドリイシ属、ハナヤサイサンゴ属、キクメイシ属の幼群体に捕食された跡が目立つ。